

田辺市

Tanabe City

自然豊かな歴史と伝統のまち

未来へつながる道
田辺市



田辺市勢要覧

Tanabe City Municipal Guidebook

平成29年7月

発行 和歌山県田辺市

〒646-8545 和歌山県田辺市新屋敷町1番地

TEL.0739(22)5300

<http://www.city.tanabe.lg.jp/>



W 世界遺産のまち、 田辺市

CONTENTS

歴史・文化

- 1 W 世界遺産のまち、田辺市
- 3 熊野本宮大社への道のり
- 5 熊野信仰の拠点「熊野本宮大社」
- 7 田辺市の宝物
- 9 ふるさと歳時記
- 11 田辺ゆかりの偉人たち

産業

- 13 おもてなしの観光を目指す
- 15 海、山、川でアウトドア体験
- 17 ひとの手とモノづくり
- 19 まちを元気に まちづくりの人々
- 23 田辺グルメを召し上げ
- 25 梅を守り、価値を高める
- 27 紀州田辺のみかん
- 29 強く美しい紀州材
- 30 豊かな黒潮の恵み

教育

- 31 生涯を学んで輝く日々／地域で子育て
- 32 スポーツを通じた交流を

福祉

- 33 支え合い、つながる地域福祉

環境整備

- 35 暮らしやすさと安全のために

防災

- 37 災害に強いまちづくり

議会

- 39 より良い市政を進めるために
- 41 市長挨拶
- 42 田辺市の市章／田辺市民憲章／
田辺市の木・花・鳥
- 43 主な年間イベント／田辺市シティマップ



田辺市の概要

平成17年5月1日、5市町村の合併により誕生した田辺市は、紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置する近畿最大の行政区域を有するまちです。

みなべ町、印南町、日高川町、有田川町、奈良県野迫川村・十津川村、新宮市、古座川町、上富田町、白浜町にそれぞれ隣接しており、西よりの海岸部に都市的地域を形成、そこから東向きに森林が大半を占める中山間地域が広がっています。主な水系としては日高川水系・富田川水系・日置川水系・熊野川水系の4水系を抱える広大な圏域です。

気候は海岸部の温暖多雨な太平洋型気候から山間地における内陸型の気候まで広範囲にわたっています。

また、田辺市は、和歌山県・奈良県・三重県にまたがる三つの霊場とそこにつながる参詣道、それらを取り巻く文化的景観で構成するユネスコの世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の中心地に位置しています。さらに、地域環境を生かし、高品質な梅を持続的に生産してきた当地域独特の農業システム『みなべ・田辺の梅システム』が国際連合食糧農業機関の世界農業遺産に認定されており、田辺市は二つの世界遺産を有するまちでもあります。

Tanabe City was created on May 1, 2005 with the merger of five municipalities. Located in southern Wakayama Prefecture on the southwest side of the Kii peninsula, it comprises the largest administrative area in the Kinki region. In addition, the "Minabe-Tanabe Ume System" was registered as Globally Important Agricultural Heritage Systems for producing high-quality plums.

総面積：1,026.91km²（東西約46km・南北約47km）

※総面積は、平成27年10月1日現在の、国土地理院の公表値によるものです。

総人口：75,811人 男：35,705人 女：40,106人 世帯数：35,485世帯（平成29年5月末現在）



熊野本宮大社に向けて 縦横に伸びる道のり

平安時代から鎌倉時代にかけて上皇やその后などの女院が、熊野参詣の旅をしました。この旅のことを熊野御幸と呼んでいます。「御幸」とは、上皇や法皇、女院の外出のこと、天皇の場合は「行幸」といいます。

907年の宇多法皇の御幸から987年の花山法皇、その後、1090年の白河上皇が熊野に御幸して以来、白河・鳥羽・崇徳・後白河・後鳥羽の五上皇が参詣を繰り返すことになります。

また、1217年、後鳥羽上皇と修明門院の御幸には1000人近くのお供がついた記録が残されていますが、お供をする貴族のお供も含めるとかなりの人数であったと思われます。

京都を出て熊野三山に参詣し、戻るまでの行程は約1か月といわれています。熊野への参詣道には、紀伊路（紀路）・伊勢路・小辺路の3ルートがあり、紀伊路は、田辺で中辺路と大辺路に分かれます。後白河法皇撰による歌謡集（平安時代末期）に「熊野へまいるは紀路と伊勢路のどれ近しどれ遠し 広大慈悲の道なれば紀路も伊勢路も遠からず」という歌が残されています。

藤原為房の「為房卿記」や源師時の「長秋記」、藤原定家の「熊野御幸記」などから代表的なル



トをたどると、京都から船で淀川を下り、大阪・堺を経て紀伊半島西岸を海沿いに南下し、田辺へ向かいました。ここからは東へ転じて山中を進み、本宮へ。その後、新宮・那智を経て、再び本宮に戻りました。上皇や女院は、全ての行程を徒歩で行くのではなく、川では船に乗ったり、陸では輿に乗ったりしながら、途中の王子社では相撲や舞を奉納しつつ旅の疲れを癒やしていたようです。

参詣道には、熊野権現の御子神を祀る王子社が建立され、道の整備とともに増えていき、藤原定家の記録（1201年）には既に80以上の王子社が記されています。

※王子社は、中継所の役目を果たし、参詣者は王子社に供え物をして旅の無事を祈りながら熊野に向かいました。

Between the Heian era (794-1185) and Kamakura era (1185-1333) many retired emperors and their wives embarked from Kyoto for the Kumano pilgrimage. On their one-month journey to pray at the three grand shrines of Hongu, Shingu, and Nachi, these pilgrims would bring along as many as a thousand attendants.

歴史の道、信仰の道 熊野古道の案内人

「熊野本宮語り部の会」会長の坂本勲生さんは、熊野古道が世界遺産に登録される前の昭和63年から語り部となりました。現在、「熊野本宮語り部の会」には60歳代の方々を中心に25名のメンバーが登録されています。歴史や文化をはじめ、動植物のことなど、観光客からのあらゆる質問に答えられるように定期的に集まっては研修を重ねています。

平成16年の世界遺産登録から、熊野古道を歩く観光客は外国人も含め年々増加しています。「時間ができると訪れたくなる場所」として何度も訪れる人も多く、熊野古道は、あらゆる人を優しく包み込む不思議な力にあふれた場所といえます。

「素晴らしい自然の中に『祈りの道』が今も残されていることに、語り部である私自身がいつも感動をもらっています。語り部の役割は、単に熊野古道の歴史や伝説を説明するだけではなく、何よりも大切なのは、観光客と地元の人がコミュニケーションをとることです。説明をしながら歩く道すがら、茶摘みをする人や農作業をしている人たちと会話を楽しんでもらうようにしています。地元の人が地元

の言葉で、地元の食文化や情報を楽しそうに話すこと。これが最高の『おもてなし』だと思うのです」と坂本さんは言います。

文化・伝統は、伝え続けなければなくなってしまうもの。坂本さんは、三里小学校の校長を退職後、小学校のボランティア「語り部ジュニア」を作りました。何度も熊野古道を歩き、自分たちで地図を作り、歴史や文化を勉強して、実際に観光客を案内しているのです。この取組は、近野小学校でもスタートしていて、平成26年度から、田辺市全小中学校による取組に発展しています。



田辺市熊野古道語り部ジュニア 近野小学校（左）と三里小学校（右）

熊野本宮語り部の会 会長
坂本 勲生さん

The Kumano Hongu Guide Association has twenty-five registered guides, mainly in their sixties. They hold periodic study sessions on everything from history and culture, to plant and animal life, with a goal of being able to answer all of tourists' questions.

時を経て、未来に受け継ぐ 田辺市の宝物



闘雞神社 国指定史跡・名勝

通称「権現さん」と呼ばれ、市民から愛されている闘雞神社は、熊野三山の別宮的存在で熊野信仰の一翼を担っていました。平家物語壇ノ浦合戦の故事によると、源氏平氏の双方から援軍を要請された武蔵坊弁慶の父とされている熊野別当湛増（熊野水軍）が、どちらに味方をするかの神意を確認するため赤と白の鶏を戦わせ決めたといういわれがあります。



田辺城水門 市指定史跡

周辺一帯は会津川河口に築かれた田辺城の城下町としてにぎわいました。田辺城は、元和5年（1619年）、浅野氏が築いた湊城の跡に、田辺領主となった安藤直次が築城したといわれています。



住吉神社の社叢（オガタマの木） 県指定天然記念物

住吉神社は、宝永年間（1704～1711年）の勧請といわれる歴史ある神社であり、社殿の背後には県内最大の大きさ（樹高27m・幹周4m）を誇るオガタマの木があります。



高原熊野神社本殿 県指定有形文化財

正式名称は「熊野神社」で、高原地区の産土神です。樹齢1000年ともいわれる見事な楠の木に包まれたこの社殿は、中辺路沿いでは最も古い神社建築です。



磯間岩陰遺跡 国指定史跡

岩陰を利用した墳墓で、5世紀後半から6世紀代のものといわれています。竪穴式石室には田辺湾を根拠地とした漁獵民の長が、鹿角装鉄剣や釣針・蛸・貝輪などの副葬品で飾られ葬られたといえます。



上御殿本館 国登録有形文化財

旅館「上御殿」は、江戸時代初めに当時の紀州藩主徳川頼宣公が龍神温泉へ湯治に訪れるために建てられた宿で、現在の建物は、明治18年に再建されたものです。旅館内にある「御成りの間」は、床が一段高く作られ、格式ある雰囲気を持っています。



神島 国指定天然記念物・名勝

田辺湾に浮かぶ神島は「おやま」と「こやま」の2島からなり、古くから森林が保全され、ハカマカズラをはじめとする暖地性の貴重な動植物が数多く生息しています。南方熊楠翁が生物の宝庫として調査・研究、保全活動を行い、昭和天皇に御進講したことでも知られ、それを記念して詠んだ歌碑もあります。※森林保全のため上陸禁止です。



天神崎 国指定名勝

日本のナショナル・トラスト運動の先駆けとなった天神崎は、干潮時には13haもの平らな岩礁が姿を現す自然の宝庫です。背後の丘陵地には海岸林や湿地帯があり、カスミサンショウウオなど珍しい動植物が見られます。

鳥巢半島の泥岩岩脈 国指定天然記念物

鳥ノ巢半島の南西海岸に干潮時、約1.5kmもの岩脈が走ります。地殻変動でできた砂岩の割れ目に、液状化した泥岩層が噴出して固まったものが泥岩岩脈で、地質学的に貴重なものとなっています。

田辺市は、平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録された熊野古道、熊野本宮大社をはじめとする、自然・歴史・文化的資源の宝庫です。特に世界遺産には、霊場と参詣道だけでなく、その周辺に広がる森林・農耕地・集落など人の営みにより培われてきた文化的景観も含まれています。田辺市では、これらの景観を含めた数々の遺産を守っていくために、「田辺市歴史文化的景観保全条例」を制定しました。昔から山や木、巨石、風や雷をも神と崇め祈りをささげてきたからこそ、有形・無形を問わず、多くの自然・文化財などが大切に守り継がれてきたのです。悠久の歴史に想像力を膨らませながら史跡や文化財を巡りまちを歩けば、更に田辺市の魅力を感じることができます。

Tanabe's many tangible and intangible assets are rooted in the nature and traditions of the region, and have been cherished and protected to this day. Walking around the cultural historic sites with an expanding imagination, you can feel the charm of Tanabe City.

田辺市の主な文化財

名称	指定別	所在地等
三栖廃寺塔跡	国史跡	下三栖
高山寺貝塚	国史跡	稲成町（高山寺）
磯間岩陰遺跡	国史跡	磯間
熊野参詣道	国史跡	中辺路・大辺路（闘雞神社）
天誅組志士幽閉の倉	県史跡	龍神村小又川
鮎川王子跡	県史跡	鮎川
田辺城水門	市史跡	上屋敷
百間山溪谷	県名勝・天然記念物	熊野
神島	国天然記念物・名勝	新庄町
鳥巢半島の泥岩岩脈	国天然記念物	新庄町
オオウナギ生息地	国天然記念物	富田川
栗栖川 亀甲石包含層	国天然記念物	中辺路町北郡
ユノミネシダ自生地	国天然記念物	本宮町湯峯
蟾蜍岩	県天然記念物	稲成町
新庄町 奥山の甌穴	県天然記念物	新庄町
野中の方杉	県天然記念物	中辺路町野中
住吉神社の社叢	県天然記念物	鮎川

名称	指定別	所在地等
熊野本宮大社社殿	国重要文化財	本宮町本宮（熊野本宮大社）
闘雞神社社殿	国重要文化財	東陽（闘雞神社）
高原熊野神社本殿	県有形文化財	中辺路町高原
木造家津御子大神坐像	国重要文化財	本宮町本宮（熊野本宮大社）
速玉大神坐像	国重要文化財	本宮町本宮（熊野本宮大社）
夫須美大神坐像	国重要文化財	本宮町本宮（熊野本宮大社）
附 木造天照大神坐像	国重要文化財	本宮町本宮（熊野本宮大社）
鉄湯釜	国重要文化財	本宮町本宮（熊野本宮大社）
田辺祭	県無形民俗文化財	東陽（闘雞神社）
紀州備長炭製炭技術	県無形民俗文化財	広域
上野の獅子舞	県無形民俗文化財	下川下
下川上の流れ施餓鬼	県無形民俗文化財	下川上
野中の獅子舞	県無形民俗文化財	中辺路町野中
湯登神事	県無形民俗文化財	本宮町本宮
平治川の長刀踊	県無形民俗文化財	本宮町本宮
カモシカ	国特別天然記念物	紀伊山地
上御殿本館	国登録有形文化財	龍神村龍神



歳時記

ふるさと

熊野本宮大社の湯登神事

熊野本宮大社の例大祭は、4月13日の「湯登神事」から始まります。宮司以下の神職・氏子・伶人（楽人）・氏子総代・稚児（2、3歳の男児）ら総勢40～50人が列を成して湯の峰温泉を出発し、太鼓に合わせて神歌を歌いながら熊野本宮大社を目指します。熊野の神は稚児の頭に宿るとされており、神事の間以外は稚児を地面に降ろしてはならず、移動の際はウマ役の父親が肩車をします。（県の無形民俗文化財指定）

The annual festival of the Kumano Hongu Taisha grand shrine commences on April 13th with rites of purification at the Yunomine Onsen (Hot Spring). A procession of forty to fifty people then embarks for the shrine, singing sacred songs to the rhythm of taiko drums.



まちを彩る時代絵巻

田辺祭

県の無形民俗文化財である田辺祭は、世界遺産に登録された關難神社の祭礼であり、450年以上の歴史をもつ紀南地方最大の祭礼にして「紀州三大祭」の一つにも数えられます。元和五年（1619年）徳川頼宣が新たに紀州藩主となり、その附家老であった安藤直次が田辺領主となった際に城下町の整備が行われ、その頃に現在のような祭の形式が整いました。田辺祭が行われるのは7月24日、25日の2日間。うだるような暑さの中、各町（旧城下の8つの商人町）の笠鉾が旧市内を曳き回すその様子は、京都の祇園祭に似ているといわれています。

祭りには「お旅所勤め」「住矢の走り」「会津橋曳き揃え」曳き別れ「七度半の使い」「流鏑馬式」といった見どころも多く、県内外から多くの見物客が訪れます。



杵荒神社の三番叟

毎年10月上旬、中辺路町栗栖川の杵荒神社境内で安産・縁結び・五穀豊穡を祈願し、3日間奉納芝居を行います。江戸時代中期から約300年の伝統が受け継がれており、現在も地区の青年が中心となって小学生たちも加わり保存、継承しています。（市の無形文化財指定）



上野の獅子舞

下川下にある春日神社の秋の例祭に奉納される獅子舞の歴史は古く、室町時代まで遡ります。毎年11月3日に行われ、五穀豊穡と地域の安全を祈願して舞われるこの獅子舞は、「上野獅子舞保存会」によって継承されています。（県の無形民俗文化財指定）



小家神楽

龍神村甲斐ノ川にある荒島神社で、毎年11月3日に行われる一年間の豊年満作・家内安全・交通安全などの感謝の秋祭りに奉納される神楽です。祭りの最初に福井・甲斐ノ川・小家の3地区が一度に獅子頭合わせを行い、神輿の聞きあいや獅子舞など、見事な神楽が演じられます。（市の無形民俗文化財指定）



野中の獅子舞

毎年1月3日と11月3日に中辺路町の近野神社と継桜王子へ奉納される獅子舞です。南北朝時代の初期、近露の野長瀬一族が、大塔宮護良親王の御軍の士気を高める出陣の舞としてこの獅子舞を演舞したと伝えられています。今日の獅子舞は、江戸時代末期に土地の庄屋が従来の古座流の舞に新しい流儀を取り入れて完成したといわれています。（県の無形民俗文化財指定）



芳養八幡神社の秋祭

平安時代から続く歴史ある神社で、毎年11月2日、3日にかけて行われる祭礼では、八幡神の勧請を模した神輿渡御が行われるほか、見どころの流鏑馬や馬駆神事では、氏子や観衆の喝采が響きます。また、宮入の時などで歌われる馬子歌は情趣に富んでいます。（県の無形民俗文化財指定）

合気道の開祖

植芝 盛平

う え し ば も り へ い

1883年-1969年

「合気道の創始者である植芝盛平翁は、私にとって神様のような存在です」合気道を始めて65年、田辺市内で合気道場を主宰し、その普及に努める五味田聖二さんが、植芝翁に初めて会ったのは小学4年生のときだと言います。「当時、身体の弱かった私を心配して親が道場に通わせましたが、正式に道場生になったのは中学1年生のときでした。大先生（植芝翁）は、私に技術よりも心の修行、つまり精神の修行が大切であることを教えてくれました」



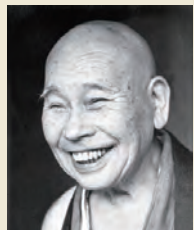
植芝盛平翁顕彰会 理事長
五味田 聖二さん

合気道の理念は、武道を通して多くの人に出会い、「和合」を尽くすこと。田辺市内の公園にある両手を広げた植芝翁の銅像は、「技」と共に「宇宙の和合精神」を表現しているといわれ、植芝翁が創始した合気道は、日本はもとよりヨーロッパを中心に世界各地に広がっています。



The practice of "aikido," founded by Morihei Ueshiba, has spread throughout Japan and onto many areas of the world, especially Europe.

山本 玄峰（やまもと げんぼう） 1866年-1961年



本宮町生まれで、24歳の時に失明後、四国八十八箇所の霊場巡りに出ました。全国を回って修行を続け、白隠慧鶴の古刹を再興します。'45年、鈴木貫太郎首相に終戦を勧め、「象徴天皇制」を立案するなど、鈴木首相の相談役を務めました。

Genpo Yamamoto, who became blind at the age of 24, served as an advisor to Prime Minister Suzuki, recommending the end of war in 1945.

脇村 義太郎（わきむら よしたろう） 1900年-1997年



田辺市生まれで、昭和から平成の経済学者であり、東京大学名誉教授でもあった脇村氏は、海運・保険・石油などの世界経済や経営史を研究しました。財閥解体・海運業界再編など数多くの産業政策に参画し、'88年から'94年まで日本学士院長を務めました。

Yoshitaro Wakimura, a scholar of economics in the Showa(1926-1989) and Hisei(1989-present) eras, was a professor emeritus at Tokyo University.

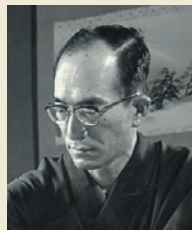
片山 哲（かたやま てる） 1887年-1978年



田辺市生まれで、東京帝国大学法学部独法科卒業、弁護士となります。社会民衆党の結成に参加し、書記長に就任します。'30年、衆議院議員に初当選し、以後、当選12回を数えます。戦後、日本社会党結成に参加し、'47年、内閣総理大臣に就任、'63年に政界を引退しました。

Attorney Tetsu Katayama was first elected to the House of Representatives in 1930, and went on to serve as Prime Minister in 1947.

高川 格（たかがわ かく） 1915年-1986年



田辺市生まれで、本因坊戦9連覇の功績により名誉本因坊として「高川秀格」と号し、後に二十二世本因坊を贈られました。「流水不争先」を信条とする昭和を代表する名棋士です。'74年に紫綬褒章、'85年に勲三等旭日中綬章など多くの受賞、褒章を得ました。

A renowned master of the game of "igo," Kaku Takagawa received the Purple Medal of Honor in addition to many other awards.

小川 琢治（おがわ たくじ） 1870年-1941年



田辺藩儒学者 浅井家に生まれました。地学の研究を志して、日本各地を調査し、日本列島の地質二重構造説・日本アルプスの低地氷河存在説などを発表します。'26年、帝国学士院会員に任命されました。湯川秀樹・小川芳樹・貝塚茂樹らの父です。

Takuji Ogawa carried out research in geosciences throughout Japan, and published many treatises.

野長瀬 晩花（のながせ ばんか） 1889年-1964年



中辺路町近露生まれで、谷口香嶺に師事しました。その後、官展に反する姿勢を示し、個展などで作品を発表します。'18年には土田麦傳らと国画創作協会を創設し、日本画壇に新風を吹き込みました。また、信州の画家、詩人らと白炎社を結成し、芸術文化運動に貢献しました。

The painter, Banka Nonagase, brought new influences into the Japanese art scene.

田辺ゆかりの偉人たち

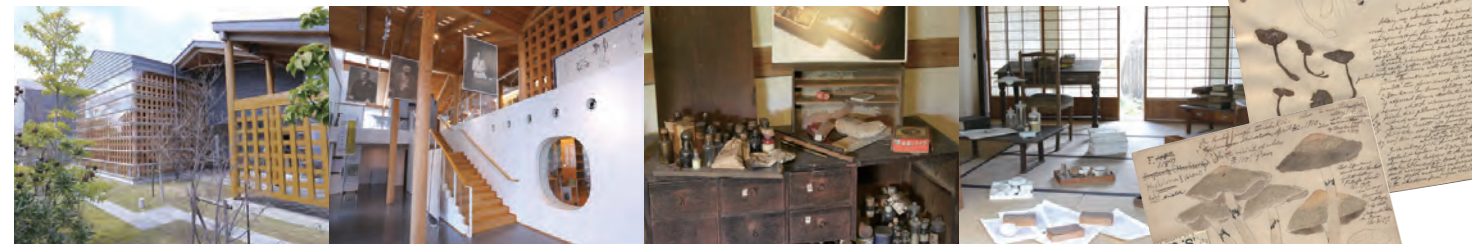
世界的な博物学者

南方 熊楠

みなかた くまぐす

1867年-1941年

和歌山県が生んだ博物学・民俗学の巨星「南方熊楠」は、東京大学予備門退学後、アメリカ・キューバ・イギリスに遊学し、数多くの論文を発表しました。「ネイチャー」掲載の論文数では、いまだに日本人で彼の右に出るものはいません。特に変形菌（粘菌）の研究は有名で、彼の名前の付いた「ミナカタ・ロンギフィラ」があります。今から100年前に「エコロギー（エコロジー）」という言葉を使い、神社林伐採による生態系破壊の危機に対して反対運動に奔走し、自然環境を守りました。「継体王子・野中の一方杉」をはじめ、熊野古道には今も熊楠ゆかりの神社や神社林が点在しています。



国立科学博物館蔵

菌類のうち、キノコについても多くの努力を費やしました。乾燥標本だけでなく、彩色図に専門的な記載文を付けたものを約4000枚も作成しました。

南方熊楠顕彰館
南方熊楠邸

「1867年、和歌山市に生まれた南方熊楠翁は、後半生を田辺で過ごしました。熊楠翁の死後、遺族によって邸宅（南方熊楠邸）や資料は保存されていますが、平成12年に長女・文枝さんが亡くなり、その遺志によってそれらは田辺市に寄贈されました。平成18年、旧邸の隣に南方熊楠顕彰館が開館。熊楠翁が遺した2万5000点以上の蔵書や資料を保存・研究するとともに、熊楠や熊楠のまじ田辺の情報を発信しています」

また、熊楠翁が研究の場とした邸宅は、熊楠存命時の状態に復原し、庭とともに公開しており、往時の雰囲気を感じることができます。



南方熊楠顕彰館 館長
曾我部 大剛さん



田辺市観光センター
JR 紀伊田辺駅の東側に位置し、和歌山県内全域の観光パンフレット等を約 100 種類常設しているほか、英語対応可能なスタッフが常駐し、各種交通案内・熊野古道の案内・各種イベントの案内等、紀南観光の各種相談に応えています。

まちの魅力を掘り起こし おもてなしに あふれた観光を目指す



田辺市観光センター（外観）

田辺市は、神秘的で奥深い森林や溪谷、世界遺産に登録された熊野古道や熊野本宮大社に代表される史跡、そして日本三美人の湯の一つである龍神温泉や日本最古の湯といわれる湯の峰温泉といった秘湯があります。また、自然環境保全の象徴である天神崎や扇ヶ浜海水浴場など、人々の心と身体を癒やす自然と文化にあふれたまちです。

観光情報発信の拠点として、JR 紀伊田辺駅東側に建設された「田辺市観光センター」や熊野本宮大社前に建設された「世界遺産熊野本宮館」、熊野の聖域への入り口といわれている滝尻王子社の向かいにある「熊野古道館」には、大きな期待が寄せられています。また、観光客へのおもてなしと、その満足度、もう一度訪れたいと思ってもらえるような観光地を目指し、人材の育成にも更

に力を入れて取り組んでいます。

世界遺産登録以降、国内外から観光客が増加。多様化する旅行者のニーズにきめ細かい対応ができるよう、旅の観光客と地域をつなぐ役割を持つ「田辺市熊野ツーリズムビューロー」が着地型観光事業に取り組んでいます。

さらに、市内各地域の観光協会との連携により、それぞれの地域の特性を生かした個性的な観光地づくりや観光資源の掘り起こし、新たな旅行商品の開発など、市民の共感と協力を得ながら活発な活動が行われています。

また、田辺市語り部・ガイド団体等連絡協議会では、各組織間における連携・強化をより一層推進し、「おもてなし」の充実をはじめとして、豊かな観光資源を存分に活用できるよう、様々な取組が進められています。

Tanabe is a city overflowing with culture and nature- a place that soothes both mind and body. It features mystical forests and valleys, Ogigahama Beach, Tenjinzaki Cape, and other scenic places. Its onsen (hot spring) include Yunomine, Japan's oldest known onsen, and Ryujin, one of Japan's three beautifying onsens. Among its historical sites are the Kumano Hongu Taisha grand shrine and the UNESCO World Heritage Registered Kumano Kodo Pilgrimage Route.



世界遺産 熊野本宮館
熊野本宮大社や旧社地「大斎原」を望む地にあります。観光情報や地域情報を発信する拠点としての役割を担っており、248 席の多目的ホール・展示スペース・図書コーナーなどもあります。



熊野古道館
中辺路町内の 12 の王子社にちなんだ 12 角形の建物が目印です。熊野古道中辺路の観光情報の拠点で、熊野の聖域への入り口、滝尻王子の向かいにあります。



龍神温泉



湯の峰温泉

海、山川でアウトドア体験



きらめく太陽と海

平成17年にオープンした「田辺扇ヶ浜海水浴場」は、砂浜が扇形をしているところから、その名称が付いたファミリー向けのビーチです。JR紀伊田辺駅から徒歩約10分、南紀田辺インターチェンジから車で約10分の場所に位置し、すぐ近くには400台収容の市営駐車場もある利便性から、毎年多くの海水浴客でにぎわいます。

また、ビーチバレー・ビーチサッカーなどスポーツイベントも多彩に開催されるほか、周辺には、黒潮の恩恵を受けた釣りのポイントが多数あり、四季を通じて磯釣りや船釣りなども存分に楽しめます。



ビーチバレー大会

Opened in 2005, Tanabe Ogigahama Beach hosts various sports events such as beach soccer and beach volleyball.

緑の中で風と遊ぶ

近年、ハイキングやトレッキングを目的とした観光客が急増しています。歴史をたどりながら熊野古道を歩く人や、季節の移り変わりを楽しもうと護摩壇山を訪れる人、キャンプやバンガローで宿泊し、温泉を堪能する人など様々。一人旅はもちろん、日常とは異なる風景、新鮮な空気と自然に包まれる心地良さを家族連れやグループでも楽しむことができます。

また、地域の約9割が森林であることから、軽い山歩きは特に人気で、里山を歩くと、地元の人との会話や宿泊先でのおもてなしなどの様々なコミュニケーションの魅力となり、リピーターが多いのが特徴です。



護摩壇山の紅葉



川湯キャンプ場（川湯野営場 木魂の里）

Walking in the mountains is very popular, for ninety-percent of Tanabe's area is covered in forests. Pleasant conversations with the locals and the warm hospitality of lodgings, draws many visitors back for repeated stays.

清流を満喫

豊かな森林や溪谷が自慢の田辺市には、川のレジャーの楽しみも豊富です。清流でしか生息しない鮎やアマゴ釣りをはじめ、カヌーや滝遊び、川の中の天然プールでの水遊びのほか、マイナスイオンをたっぷり受ける体験型レジャーの人气が年々上昇しています。小さな子供から高齢者まで年齢を問わず楽しめるのが川レジャーの特徴で、無理なくそれぞれのペースで自然を相手に遊ぶことができます。田辺市内を流れる熊野川や日高川、日置川、富田川そして左会津川などは、多くの人の癒やしの場として親しまれています。



かやの滝



鮎釣り

River sports and leisure activities are increasingly popular, which include ayu and amago fishing (fish found only in clear streams), swimming, canoeing, and playing around the waterfalls.

皆地笠

しば やすお
芝 安男さん

和歌山県知事指定伝統工芸品に認定されている「皆地笠」を作るのは、本宮町皆地に暮らす芝安男さんただ一人です。その昔、この地方に隠れ住んだ平家の公達が、香り高い檜（ひのき）を使って笠を編み出し、熊野詣での人々に広く愛用されるようになった

といわれています。いつからか産地の名前をとって「皆地笠」と呼ばれるようになりました。山に入り、節のない樹齢60年以上の檜を見極め伐採した後、木が柔らかいうちに「材」にしていく作業は、大変根気のいる仕事で、1つの笠を

作るまでに7つの工程があり、それぞれの材料を作るところから全て手作業。「檜を薄く均等に削る」「材」作りが一番大切なんですよ。これを間違えるときつちりと編めないんです」

芝さんは子供の頃から父親の仕事を見て育ち、その作り方を覚えたと言います。「昔は他にも8軒ぐらい笠を作る家もあったけど、今では私だけになりました。大坂や奈良から弟子入りを志願してくる人もいます。作り方の本があるわけでもなく、いい檜の選び方が書いてある物もないですからね。途中で断念していききましたね」

後継者がいないのは本当に残念ですが、今でも軽さと雨をはじく特性から川釣りの人や農家の人たちに重宝されています。



芝さんが作る笠は、檜の脂分が出て雨が降ってもそれをはじくため、修行中の行者が使う「行者笠」や僧侶が使う「阿闍梨笠」などの注文も全国から寄せられます。時を経てあめ色に変化しても機能性はそのままだといいます。

“Minachigasa” is a conical hat made with a lubricant from cypress trees that repels rain. Orders for this hat come from all over Japan.

ひのきまきぐさ



松煙

しょう えん
ほりいけ まさお
堀池 雅夫さん

日本でただ一人「幻の墨」を昔ながらの製法で作っているのは、鮎川で工房を営む堀池雅夫さんです。自然災害等で折れたり枯れたりしたアカマツを10年以上置いておくと、周りの部分は白く腐って、脂の多い赤身だけになります。それを小割りにして不完全燃焼で燃やして煤（すす）を取っていきます。小さな炎でゆつくりと燃やすため、5分おきに松をくべ足すのですが、500kgの松を1日8時間、計100時間ほど燃やしてようやく

10kgの煤が取れるという大変な作業です。集めた煤に膠（にかわ）を少しづつ加えながら乳鉢に入れて丁寧に練りこみ、乾燥させて墨が完成するまで約半年間もの時間を要する貴重な墨が「松煙墨」です。「松煙墨」は何と言っても、その美しい滲（にじ）みと青みを帯びた黒い色にあり、書道家だけでなく芸術家にも愛用者が多くいます。堀池さんは顔料を混ぜて色を付けた墨「彩煙墨」を作るなど、伝統を守りながら新たな取組にも挑戦しています。



松煙墨の歴史は古く、飛鳥時代に中国から日本にもたらされたといわれています。江戸時代以降、各地で松煙による造墨が盛んに行われましたが、近代になるとコストの安い鉱物油が使われはじめ、昭和30年代には途絶えてしまいます。和歌山県でも200軒ほどの業者がいましたが、過酷な労働に加えて松材が入手困難になり、同じ頃途絶えてしまいました。◀枯れて死んでしまったかのような松を割ると、脂をたっぷり含んだ赤身が姿を現します。

“Sho-en-boku” is a type of ink stick produced from painstaking labor using pine soot. Thought to have come from China in the Asuka era (approx. 538-710), this is the only place in Japan that it is produced.

紀州備長炭

きしゅう びんちよう たん

江戸時代の元禄年間に備中屋長左衛門が、秋津川で焼かれていた白炭に「備長炭」と名付け、売り出しました。今では田辺市の特産品となっています。



In the Edo era (1603-1868), Bichuya Chozemon started selling white charcoal produced in the Akizugawa area. He named it “binchotan,” and it has been a special product of Tanabe ever since.



右から
たきじり てつお
滝尻 哲雄さん
たむら けいじゅ
田村 桂樹さん

「常に高品質な世界一の炭を作るのが、私たち炭焼き職人の仕事です」胸を張ってそう言うのは、秋津川にある紀州備長炭記念公園内の窯で炭を作る職人さんたち。紀南地方の山間部で行われている紀州備長炭づくりは、樹齢20〜40年のウバメガシの原木を切り出し「木ごしらえ」という作業から始まります。これは、曲がったウバメガシをまっすぐにする作業で、高品質な備長炭づくりのために欠かせない工程です。奥の方から窯に詰めた後、窯口で火を焚き、煙の色が変わるまで3〜5日ほど焚いて口を塞ぎ、220度〜650度ほどの温度で、6〜9日間かけてしっかりと炭化させていきます。その後、窯口

を少しずつ開けて空気を送り、じっくり温度を上げていき、精錬（ねらし）をかけます。「黒糖を焼いたような甘い匂い」ときは良い出来、きつい匂いときは不出来、他にもいろいろあるんや。このときの匂いで炭の出来上がりが分かる」と言います。炭化した原木を窯口近くに寄せ、かき出して、空気にあてて一気に1200度近くまで高めてから引き出します。そこに土と灰を混ぜた消し粉（素灰）をかけて空気を遮断し、消化することで焼き締めます。職人が約15日かけて作り上げた紀州備長炭は、世界に誇る高品質な炭として知られています。古くから受け継がれてきたこの製炭技術は、昭和49年、県の無形民俗文化財に指定されました。



まちを元気に まじりくりの人々

住民の手による、 農業を軸とした地域づくり

移転改築した上秋津小学校の旧校舎を生かし、都市と農村の交流施設「秋津野ガルテン」が誕生したのは平成20年。ここを拠点とした新しい農村の形が全国から注目されています。

上秋津地区は、江戸時代には梅、明治時代には柑橘栽培が既に始まっていた農村地域で、農業が地域を支えてきたという歴史があります。

昭和32年、上秋津村当時、村有財産である土地・山林を公共のために有効活用することを目的として、「社団法人上秋津愛郷会」が誕生。得られた収益は、教育の振興、住民福祉、環境保全に使うという独自の運営を重ねてきました。「農業が衰退すれば地域も衰退する」という想いから幾たびもの農業危機も地域で知恵を出し、乗り越えてきたのです。

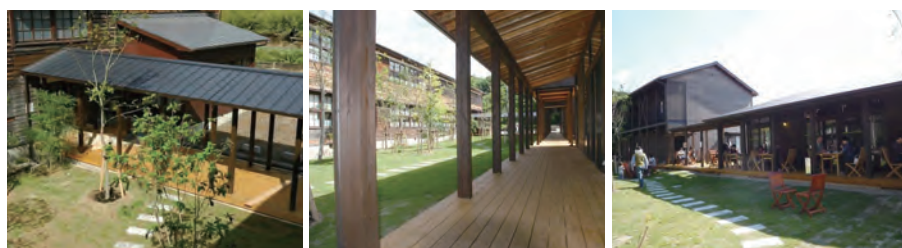
その後、都会にはない、香り高い農村文化社会の実現を図るため、平成6年に地域づくり塾「秋津野塾」を結成。子供を主役にした様々なイベントを開催し、地域内外の交流を活性化してきました。

た。平成8年には農林水産省表彰事業「ゆたかな地域づくり表彰天皇杯」を受賞し、地域全体が更に団結・活性化しています。

農村地域でありながら自然環境・住環境・利便性の良さから年々人口が増加しています。今後、どのように地域づくりを進めていくか、行政や様々な組織の協力の下、マスタープラン作成のためにアンケート調査を実施するなど、「住民のための地域づくり」を徹底して考えていく方法を行っています。

そして、「将来を見通した地域づくりのためには人材育成が基礎であり、そのためにも財源を確保していくこと」「農業を軸として地域の価値を創り、そこに暮らす人を減らさない」といった目標を掲げつつ、新たな事業として太陽光発電の設置と売電による、エネルギーの地産地消にも取り組んでいます。

安心して暮らせる地域づくりを住民自らが考え、行政と協力して実行していくことこそ「地域の活性化」であることを上秋津の住民は、行動で見せてくれています。



秋津野ガルテンには「宿泊棟」、スローフードと地産地消にこだわった農家レストラン「みかん畑」、お菓子体験工房「パレンシア畑」などがあります。

The former Kamiakizu Elementary School building has been remodeled into "Akitsu-No-Garuten." The new facility offers lodging, a rural farm-themed restaurant advocating "slow food," and opportunities to experience harvesting of Japanese mandarin oranges and making sweets. It has received recognition nationwide.



あがら☆たなべえ調査隊
隊長 池田 周作 さん

「かつてのまちのにぎわいを少しでも取り戻せるように、平成20年に『あがら☆たなべえ調査隊』を結成し、スイーツ・麺・ランチといったテーマ別に手作りマップを作りました。まち中を歩いて、いろんなお店をもっと楽しんでもらおうという企画です。調査隊のメンバーは、それぞれ仕事を持っていながらボランティアで活動してくれる人ばかり。何と言っても『田辺が好き！』なんですよ」

この活動を通じて隊長の池田さん自身が、自分が住むまちの魅力を再発見でき、誇りに思えたことが大きいと言います。今後のまちづくりを担う若い世代たちが「歩いて分かるまちの魅力」をこれからも広く発信し続けていきます。



調査隊員自らが、収集した情報を元に取材、制作まで全て行った手作りマップです。和歌山大学南紀熊野サテライトのスタッフがイラストを描いてくれるなど、様々な人の協力と応援が集いました。

"agara ☆ tanabe research-team" is an organization formed in 2008 by young local volunteers. It seeks to increase the liveliness of Tanabe City and spread word of its many charms.

歩いて分かる「まち」の魅力



コンペティション部門では、審査員に映画有識者と映画検定1、2級合格者を迎え、「弁慶グランプリ」「映検審査員賞」を決めます。市民や観客も投票することができ、受賞作品が翌年都内で上映される点も特徴です。



ちかの平安の郷推進協議会
会長 久保 智彦 さん

地域の人と観光客との交流の場

近野（近露・野中）地域は、世界遺産である熊野古道の滝尻王子から熊野本宮大社までの中間部にあり、古くから熊野詣での宿場町として栄えた地区。そんな近野をもっと知ってもらおうと活動している人たちがいます。

「熊野の観光案内や歴史の紹介ができる休憩所があればと考えていました。ちょうどその頃、日本画家『野長瀬晩花』の生家を残そうという話があり、修復整備して『近露観光交流館（ちかの平安の郷かめや）』として平成25年7月にオープンしました。地域の人々と観光客との交流の場となっています」



高菜の漬物づくりやエコクラフトなどのものづくり体験を観光客が地元の人と一緒にしたり、俳句会に参加したりと、にぎわっています。また！ターンの若者たちがジビエ料理に着目し、ビジネスにつながる取組も行っています。

The Chikatsuyu Tourism Salon (Chikano Heian-no-Sato Kameya) is a rest place where local residents share historical and tourist information with visitors. Created to foster exchange between locals and tourists, it is located in the childhood home of the famous painter Banka Nonagase.

映画祭を通して地域の文化的活性化を

映画祭を通じて、交流人口の増加と映画文化の振興を図ることで、田辺市へ来訪された映画関係者と市民とのコミュニケーションが活発になり、それらが地域活性化につながるようにと「田辺・弁慶映画祭」が平成19年10月に初めて開催されました。以来、毎年回を重ねるうちに、商業映画デビューを果たす監督が輩出されるなど、新人映画監督の登竜門となる映画祭として評価が高まっています。

当初、スタッフは地元の有志が大半で、手作り感覚の映画祭でしたが、着実にその内容は濃いものとなり、近年では応募作品の増加に比例して、コンペティションのレベルも高くなっ

ているほか、スタッフの人材育成への取組なども充実してきました。

映画祭実行委員長の中田さんは「子供からお年寄りまで幅広い年代の方々が映画に興味を持ってくれるとうれしいです。1年を通して公民館やいろんな施設で映画の上映会をするなどして大きく広げていき、多くの映画ファンを田辺市に集めたいですね」と話します。

文化的事業はすぐに経済効果に結び付くものではありませんが、経済以上の効果が映画祭にはあり、そういう意識の向上は、やがて大きなうねりを作り、まちを活性化していく力を生み出していくことになりそうです。

Since 2007, the Tanabe Benkei Festival has been held annually. The highly acknowledged festival has introduced works that make a commercial film debut.



田辺・弁慶映画祭 実行委員会
実行委員長 中田 吉昭 さん



おかいさん（茶粥）

和歌山県・奈良県・三重県で昔から毎日のように食されたお粥です。ほうじ茶や番茶を入れた茶袋を煮出し、米を入れて炊くのが一般的で家庭によって季節の食物（さつまいも・そら豆・かぼちゃなど）を入れたりします。



ゆず 柚子もなか

白豆にすりおろした柚子の皮を混ぜた柚子あんを、香ばしい皮に包んだ一口サイズの小さな「柚子もなか」が出来たのは明治40年です。以来、周辺地域にも広がり、今では紀南銘菓の一つになっています。



さんま寿司

晩秋から初冬にかけて紀伊半島沖を南下する「さんま」は、適度に脂が落ち、お寿司にぴったりな味わいになります。柚子やダイダイの果汁をたっぷり使った酢に浸して作るさんま寿司は、祭りや正月料理に欠かせません。



ぼうり

「ぼうり」とは、里芋の親芋の煮物のことで、鮎川（小川地区）の郷土料理です。鎌倉時代に、後醍醐天皇の皇子、大塔宮護良親王は、鎌倉幕府の追及を逃れたこの地で村人に餅を所望しましたが、村人たちは親王とは知らず、お触れによりそれを断りました。のちに、その人が、親王であることを知った村人たちはその行いを恥じて、600年間正月に餅をついて食べることをやめ、「ぼうり」を食べるようになったと伝えられています。

Blessed by a warm climate and the Kuroshio Current, Tanabe enjoys abundant harvests from the mountains and large hauls from the sea. The city is working on promoting and increasing recognition of its regional food products.



ちゃんぽん

漁師町である江川地区には、お好み焼き屋が多く点在し、昔からあるメニューの一つに「ちゃんぽん」があります。2種類以上のものを合わせることを「ちゃんぽんする」といい、焼そばと焼うどんをミックスしたものを、そのまま「ちゃんぽん」というメニューにしています。近年B級グルメとして注目され、来訪者からも人気があります。



なんば焼・ごぼう巻

エゾ・グチなどの白身魚を主原料とする「南蛮焼」は、蒸し蒲鉾ではなく「焼き蒲鉾」です。プリッとした歯ごたえが特徴で、江戸時代、魚の保存方法の一つとして考えられたと伝えられています。「ごぼう巻」は、柔らかく茹でたごぼうを魚のすり身でまとめ、魚皮を何枚も巻きつけてこんがり焼き、甘辛いタレに漬け込んで仕上げる田辺の名産の一つです。

田辺グルメを 召し上がれ

めはり寿司

昔から山仕事の弁当といえば、高菜の漬物でおにぎりを包んだ「めはり寿司」でした。目を見張るほど大きく、目を見張るほどおいしいことなどから付いた名前といわれています。今では各家庭によって白米や酢飯、また高菜の軸の部分の部分を刻んだものを入れるなど、大きさや形もいろいろあります。

紀州田辺の食文化

1年を通して温暖な気候と黒潮の恵みを受ける田辺市は、海の幸、山の幸が豊富な地域です。そこに歴史と産業、人々の暮らしが重なり、独特の食文化が育まれ受け継がれてきました。それらは正月や祭りといった特別な日だけのものもあれば、毎日の食卓にのぼるものまでに実に多彩。それぞれに人々の知恵と物語が詰まっています。

また、田辺市では、地元産品の販路拡大、販売促進のために「田辺市地域ブランド推進協議会 紀州田辺とっておき」を設置し、各種イベント等を通して田辺市と産品の認知度を高めることによって、地域産業の育成と発展に取り組んでいます。



最高級ブランド 「紀州南高梅」を守り、 その価値を高めていく



全国でもトップクラスの梅生産量
梅干しと梅酒を国内外にアピール

梅は、栽培・加工・流通など、それに関わる関係者も多く、産業全体の売上高は田辺市を大きく支えています。また、梅の加工から販売まで一括で行う梅加工業者は、数百家を数えるまでになりました。

田辺市の年間平均気温は、16℃17度と温暖で、降水量も多く、また幅広い土壌に適合する梅の特性から、全国有数の産地を形成しています。梅干しなど、様々な用途に適した「紀州南高梅」をはじめ、果実が美しく、青いダイヤと呼ばれる「古城」、また、新品種の育成が盛んに行われている中、紫色の果皮が特徴の新品種「パープルクイーン」が誕生するなど、高品質な梅の栽培が盛んに行われています。

紀州ブランドの認知度を更に高めるため、生産者をはじめ、JA・梅加工業者・行政が協力し合い、産地振興に取り組んでおり、近年では、梅干しだけでなく、梅酒の製造販売が年々活発化しており、国内外に販路が広がっています。そのようなか、田辺市から梅酒や梅干しの消費を喚起させようと、「田辺市紀州梅酒による乾杯及び梅干しの普及に関する条例」が制定されました。

JA 紀南生産販売連絡協議会

委員長 いずみ まさはる 泉 雅晴 さん

梅産地では、生産者の高齢化や価格が安定しないなどの課題がありますが、梅生産を中心とした農業システムが世界農業遺産に認定されるなど、長い歴史の中で梅を生産してきたことそのものが、世界に評価いただいています。梅農家としては、消費者の皆さんに安心して食べていただける高品質な梅を精魂込めて生産するとともに、行政と力を合わせて、梅の持つ機能性や産地PRを積極的に進めていきたいと思っています。

紀州田辺梅干協同組合

理事長 なかつ よしあき 中田 吉昭 さん

梅は、重要な地場産業です。組合も産業全体の一員として、梅を発展させていく使命を担っていると考えており、流通・PR・コンプライアンスはもちろん、食品の安全性にも重点を置いて活動しています。また、世界農業遺産として認められたことをどれだけ有効に使えるかが重要です。付加価値を高めていき、一大産地として未永く発展していければいいですね。



The Japanese plum, or "ume," industry contributes greatly to Tanabe's economy and employs many of Tanabe's citizen in cultivation, processing, sales, and other work. City ordinances have been enacted seeking to increase consumption of ume wine and dried ume, and promotion activities are conducted throughout the region. In addition, markets have expanded both domestically and overseas.

潮風と太陽の恵みを たっぷり受けて育つ 紀州田辺のみかん

1年を通じて約80種類の柑橘を収穫

田辺市のみかんは、紀南特有の温暖湿潤な気候を生かして栽培されています。温州みかんをはじめ、ポンカン・デコポン・はっさく・清見オレンジ・ネーブル・三宅柑などの晩柑類まで豊富な品種が栽培されており、ほぼ1年を通じて約80種類のみかんが収穫されています。一般的に「みかん」と呼ばれるのは「温州みかん」で、皮は薄くむきやすく、程良い甘さと酸味があることから、昔から親しまれています。その中で9月から収穫が始まるのが「極早生みかん」で、青さが残り酸味が少し強いのですが、すっきりとした風味とさわやかな香りが特徴です。10月頃から

は「早生みかん」へと移行していきます、その中でも、年末年始にかけて早生みかんをじっくり樹上で熟させた「木熟みかん」は、酸っぱさが和らぎ、甘味が一気に増し、コクのある味になります。温州みかんが終わる頃から出荷が始まるのが晩柑類で、様々な品種の特色ある味を楽しむことができます。紀州田辺のみかんは、栽培に適した気候であることに加え、生産農家の絶え間ない努力によって良質の柑橘類が生産され、全国トップクラスの品質を誇っています。田辺市柑橘振興協議会の小谷真一さんは、「田辺市のみかん農家



さんは、やりがいを感じ、こだわりの持つてみかんづくりをしている人が多い」と言います。試験場でも新品種の研究をしており、そこには農家の方たちの経験と知識が必要で、共に協力を惜しまず取り組んでいます。柑橘栽培は、後継者が多く育っており、今後若い人たちの活躍が更に期待できる産業でもあります。



Tanabe's citrus cultivation takes advantage of the region's uniquely warm and wet climate. Approximately eighty varieties of citrus are grown throughout the year. In many communities, citrus cultivation is passed down through generations, and has been entrusted to its capable new youth generation.



田辺市柑橘振興協議会
会長 小谷 真一さんご夫妻



イサキ

田辺市は「イサキ」の漁獲量が県内1位を誇っており、これをもっと多くの人に食べてもらおうと「紀州いさぎ」としてブランド化に取り組んでいます。「紀州いさぎ」は、手釣りという漁法で一尾一尾丁寧に釣り上げ、船倉で活かしたまま帰港し、水揚げ前に活けはじめることにより、抜群の鮮度で出荷しています。



ヒロメ

「ヒロメ」は、ワカメと同種同属の海藻で、全国でもごく限られた海域にしか分布していない非常に希少な海藻です。柔らかくてとろみがあり、しゃきしゃきとした独特の食感・歯ごたえが特長で、地元では春を告げる海藻として高い人気があります。また、「紀州ひろめ」という名称で、ブランド化に取り組んでいます。



シラス

伝統の小曳網漁法は、広げた網を少しずつ人の手でしぼるのでシラスの体を傷つけない漁法です。現在は効率的なバッチ網が主流ですが、磯間地区では小曳網漁法での漁も行っています。

The Kuroshio Current bestows Tanabe City with many aquatic resources. To increase the value of these resources, new dishes and processed foods are being developed, as well as new markets to increase their consumption.

黒潮の恵みをブランド化し 安定供給に取り組む

田辺周辺の海域は、黒潮の恵みにより水産資源の種類は多く、一本釣り漁業やまき網漁業、船曳き網漁業などが行われています。主な魚種はアジ・サバ・シラス・イサキ・カツオで、他にもイセエビやイカ等の水産動物や海藻のヒロメなどがあります。

これまで比較的漁業条件に恵まれた地域ではあったものの、近年、漁業を取り巻く環境は、厳しさを増しており、漁獲量の減少や従事者の高齢化と後継者不足が課題となっています。

水産資源の維持と増大を図るため、効果的な放流事業等を実施し、「つくり育てる漁業」を推進するとともに、販路拡大を通じて、漁業後継者の育成確保と漁業者及び

漁業協同組合の経営基盤の安定化に取り組んでいます。

また、高付加価値化を図るための加工品や料理の開発などを行い、新たな販路開拓による消費の拡大を目指しています。特に初夏に旬を迎える「イサキ」と海藻の「ヒロメ」のブランド化を積極的に推進しています。



龍神村森林組合 代表理事組合長
真砂 佳明 さん

林業の後継者不足は長年の課題ですね。1ターンで雇用が生まれた時期もありましたが、子供の頃から山に入り、まきを割ったりして暮らしてきた地元の人たちとは、ペースも違い、苦勞されているのが現状です。現場で働く人のほかにも、山主（森林経営者）の後継者がいないことも深刻な問題です。しかし、これらのこともできるだけ早く解決できるように、多くの方々の力を借りながら努力しています。人も技術も後世につないでいかなければと考えています。龍神材の良さを多くの人にアピールしていきたいですね。

紀州木の国と呼ばれるほど良質な杉や檜は、地域全体の経済を支えてきました。高度経済成長期には多くの人が林業に関わり、基幹産業として栄えていましたが、昭和39年以降、安価な外材が大量に輸入されるようになり、地域の林業は、次第に低迷していきました。しかし、近年、再び紀州材が、注目を集めるようになってきました。国内の建築物では、その気候風土で育った木材が適していることが再認識され、また年輪の詰まった木目が特徴の紀州材は、地震などの災害にも強いということが広く知られるようになったことも要因の一つといわれています。

龍神村森林組合は、昭和40年代から地域ぐるみで「龍神材（紀州材）」のブランド化に取り組んでいます。木目と色合いが美しい木材として高く評価され、また森林組合が原木市場を持っており、伐採した木材をその場で流通できることも大きな強みになっています。



紀州材使用住宅

High quality cedar and cypress trees provide economic support to the entire region. The Ryujin Forestry Union is working on branding this lumber, and has joined forces with the government to advance the forestry industry.

生涯を学んで輝く日々

田辺市では、「人をはぐくみ人をつなぎ 地域を創る 生涯学習のまち・田辺」を基本理念として、市民の誰もが、いつでも、どこでも、自らの意思と選択によって学ぶことができるとともに、学びの過程を通じて人と人、人と地域がつながり、その成果を地域で生かすことができる生涯学習のまちを目指しています。

また、地域の有する自然、歴史や文化など、豊かな地域資源を生かしながら、地域が抱える様々な課題を共有し合い、共に学び合う中で、地域課題の解決に向けて身近なところから行動できる人づくりに取り組み、人と地域が輝き共に支え合う、未来へとつながる持続可能なまちづくりを目指しています。

Tanabe City aims to bring the local communities together by focusing on lifelong learning and create a support system that would lead to future community development.



人材育成講座



田辺市文化交流センター「たなべる」



田辺市立美術館



熊野古道なかへち美術館

学校と家庭・地域が連携して、子育て・地域づくりを

少子高齢化や過疎化など急激な社会環境の変動により、地域コミュニティや地域活力の低下が進み、子供たちを取り巻く状況も変化しています。

このような時代だからこそ、学校と家庭、地域が連携・協力し、地域ぐるみで次代を担う子供たちを育てる環境づくりと、郷土への誇りや愛着を深めてもらえるような取組を進めていくことが重要です。

田辺市では、確かな学力、豊かな心、健やかな体とたくましい体力を育てる「基礎基本の徹底」とともに、学校・家庭・地域が一体

となつて子供を育てる「学社融合の推進」に努めています。

学社融合推進事業は、学校・家庭・地域のつながりを大切にし、各地区の公民館や地域の教育資源の活用とそれぞれの地域の特色を生かしながら、世代の違う人たちから地域の歴史や文化、生活の知恵や工夫を学び、郷土への誇りや愛着心を持つ子供を育てる事業です。地域の方々にとっては、自身の経験を子供たちに伝えることを生きがいと感じるとともに、地域の伝統文化の継承と活性化につながっています。



語り部ジュニア発表会



みかん狩り体験

スポーツを通じた交流人口の増加と生涯スポーツ社会の実現を目指して

田辺市では、生涯スポーツ社会の実現を目指し、市民の誰もが気軽にスポーツに親しみ、健康で豊かな生活が送れるよう、各種スポーツ大会の実施やスポーツ・レクリエーション活動の普及、体育施設の整備等スポーツ環境の充実を図るとともに、次代を担う青少年の健全育成のため、体育連盟等関係団体と連携し、指導体制を充実させることはもちろん、総合型地域スポーツクラブの育成、スポーツ少年団等各種競技団体への支援なども行っています。

さらに、平成27(2015)年の「紀の国わかやま国体・わかやま大会」の会場となった「田辺スポーツパーク」や「市立弓道場」を中心に、県内外からのスポーツ合宿や大会の誘致による交流人口の増加と地域の活性化促進に取り組んでいます。

また、田辺スポーツパークがパラリンピック陸上競技のナショナルトレーニングセンターとしての指定を受けたことを機に、



田辺市立弓道場

In 2015, a national sports event was held at the Tanabe Sports Park, which helped promote and revitalize the region. In addition, the Tanabe Sports Park has been designated as the National Training Center for the Paralympic Athletes for the 2020 Tokyo Olympics.

共に支え合い、 つながりを持つ地域福祉



寄り添う支援活動

田辺市では、市民一人ひとりが住み慣れた地域の中で、共に助け合い、安心して暮らせる福祉のまちづくりを進めるため、地域における各種民間団体の先導的な保健福祉活動を促進するとともに、高齢者や障害のある人を対象に様々な地域福祉事業を実施している田辺市社会福祉協議会や、地域福祉の担い手である田辺市民生児童委員協議会と連携を図るなど、地域住民、福祉関係活動者と行政の協働により、地域福祉の推進に取り組んでいます。

また、障害の有無や年齢などに関わらず、一人ひとりが自立し、互いの人格や個性を尊重し、支え合い、住み慣れた地域で生涯を通じて安心して暮らすことができる共生社会を実現するため、JR紀伊田辺駅や市役所本庁舎などの公共施設のバリアフリー化のほか、心理面等でのバリアフリーやユニバーサルデザインの導入にも取り組んでいます。

中でも、田辺市社会福祉協議会は、行政との役割分担の下、市民に対する保健福

祉の総合相談窓口としての機能を発揮しています。^{※3}「要援護者の見守り・声掛け活動」のほか、^{※4}「生活福祉資金貸付」^{※5}「福祉サービス利用援助事業」は、近年、利用が増えており、平成23年に設置した常設型地域リビング「よりみちサロンいおり」は、子供から高齢者、障害のある人の居場所として定着する中、平成26年5月からはコミュニティカフェを、障害のある若者の社会参加と就労支援の場としても展開しています。

※1 バリアフリーとは、高齢者・障害のある人などが社会生活をしていく上で障壁となるものを除去することです。物理的・社会的・制度的・心理的な障壁、情報面での障壁など、全ての障壁を除去するという考え方です。

※2 ユニバーサルデザインとは、あらかじめ、障害の有無・年齢・性別・人種などに関わらず、多様な人々が利用しやすいよう、都市や生活環境をデザインする考え方です。

※3 要援護者の見守り・声掛け活動とは、家族や近所の人の連絡先、救急に必要な事項を記載した緊急連絡カードを、家庭に備えておくように啓発するものです。高齢者世帯や障害のある人などへの見守り、声掛け活動の一つです。

※4 生活福祉資金貸付とは、安定した生活を目的として低所得者・高齢者・障害のある人などを対象に資金の貸付けと必要な援助指導を行うものです。経済的自立や生活意欲の助長促進、在宅福祉と社会参加の促進を図るものです。

※5 福祉サービス利用援助事業とは、判断能力が十分でない高齢者や知的障害及び精神障害のある人の金銭管理と、日常生活のお手伝いを目的として定期的に利用者の方々を訪問し、暮らしの支援を行うものです。



よりみちサロンいおりで開かれているカフェ「フオレジュ」

高齢者の笑顔があふれるまちに

老人福祉において田辺市が最も力を入れて取り組んでいるのが、介護予防です。

高齢者人口が増え続ける中、加齢によって生じる心身の変化に向き合い、高齢者自身が有する能力を可能な限り損なわずに、明るく元気に自立した日常生活を送っていただけるような様々な取組をしています。

転倒予防のために、自宅でできる体操や筋力トレーニングを身に付けるための教室、健康な身体を維持するための栄養教室などを定期的に開催しています。



わかわか教室

In its elderly welfare system, Tanabe puts emphasis on preventative care.

障害のある人のバックアップ体制を強化

田辺市の障害者福祉は、早くから社会福祉法人等の民間の活動を行政が支援する形で取り組まれてきました。

そのため、現在では、県内でも事業所の整備が進んでいる地域となり、全国的に高い評価を受けている法人も育ち、市内だけでなく、他地域からの利用者も多くなっています。

また、社会福祉協議会、民間事業者及び行政の連携の下、障害の種別にこだわらない相談窓口を設置し、障害のある人の地域生活をバックアップする体制の強化を図っています。

今後も更に充実した体制整備に取り組んでいきます。



ふれあい文化祭

Tanabe's welfare system for the disabled holds national esteem for its support towards private organizations' activities.

安心して子育てができるまちに

少子化対策の一つとして、安心して子供を産み、育てることができる環境づくりが重要です。このようなことから、待機児童を無くす取組や、障害のある子供の保育、延長保育など、保護者が安心して働ける幅広い子育て支援が求められており、様々な課題を解決できるよう行政と民間の連携を強めています。

今後も各種子育て支援事業をはじめ、学童保育の推進など、更に充実した環境づくりに取り組んでいきます。



青空広場

In the face of the country's declining birthrate, Tanabe strives to create an environment where parents can raise their children with peace of mind.

The Tanabe City government cooperates with communities and private social welfare organizations in its efforts to promote health and welfare activities. Its goal is to create an environment where all people can coexist in peace, regardless of disability, age, race, or gender.



南紀田辺インターチェンジ・田辺西バイパス

阪和自動車道（近畿自動車道紀勢線）のインターチェンジ周辺の整備により、高速道路の乗り口、芳養方面、市街地方面へと通じる道路ができ、渋滞の緩和と時間短縮が実現しました。



一般国道 425 号 福井バイパス

龍神村柳瀬～福井間を結ぶバイパスの完成により、龍神地域の観光振興や災害時の緊急輸送の強化につながりました。



一般国道 168 号 本宮道路

本宮町大居～土河屋間を結ぶバイパスです。大型車両の対向ができない場所もありましたが解消され、観光客の利便性も向上しました。

都市計画道路 元町新庄線

海蔵寺地区区間の完成により、これまでの交通難所が解消されるとともに、JR 紀伊田辺駅へのアクセス機能が強化され、中心市街地の利便性が向上しました。



新庄総合公園

子供や高齢者をはじめとした多くの市民が、安心して楽しめる公園として充実した維持管理に努めています。



JR 紀伊田辺駅前広場

送迎用自家用車の停車による混雑の解消や公共交通機関の機能的な配置による快適な駅づくりを目的として、平成 25 年に JR 紀伊田辺駅前広場を整備しました。

田辺市は、集落が河川の流域ごとに分散した特有の地域構造を抱えており、これらの地域間を結ぶ道路整備や交通弱者のための効率的な公共交通サービスの提供が必要で、早急に取り組むべき課題でもあります。

その中で、空洞化する市街地を再生するため、中心市街地の魅力や利便性の向上を図るとともに、便利で機能的なまちづくりを進めるためにも、道路整備は欠かせません。日常の利便性だけでなく、万が一の災害発生時への対応、そして紀南地域の経済振興に向けて整備に取り組んでいます。

また、市民にとって憩いの場であるのが、23 ha の敷地を持つ新庄総合公園です。「花と芸術」「水と森の野外音楽堂」「山と緑と花の谷」をテーマとして整備しました。ここでは、自然環境に親しみながら文化的活動を楽しむことができ、家族連れや様々な市民イベントにも活用されています。

Tanabe has been working on maintaining its roads to improve the attractiveness and convenience of the central area, as well as promote the regional economy, and improve disaster response capability.

暮らしやすさと
安全のため
環境整備を続けます



平成 28 年度から新庁舎の運用を開始しました。

田辺市では、災害から市民の生命や身体、財産を守るとともに、被害の軽減を図るため、「田辺市地域防災計画」に基づき、災害予防、災害応急対策、災害復旧など総合的かつ計画的な防災行政に取り組んでいます。近年では社会環境の変化、局地的な豪雨や台風の大規模化などの自然環境の変化も相まって、災害自体が複雑多様化するとともに、近い将来に発生が危惧されている南海トラフ地震とそれに伴う津波災害は、当地方に甚大な被害をもたらすと予想されています。

市民の命を守るために 災害に強いまちづくりを推進

こうした中、自助・共助・公助のそれぞれにおいて災害への対応力を高めるため、防災学習会を開催するなど、市民の防災意識を高める啓発活動のほか、自主防災組織による自主的な防災活動の活性化や消防団を中核とした地域の防災力の充実強化を図るとともに、あらゆる災害に対する脆弱性を克服する強靱な地域づくりに取り組むなど、災害に強いまちづくりを推進しています。

また、市民の安全・安心の確保のためには、なお一層の常備消防力の充実強化が必要であり、平成28年度から運用を開始した新消防庁舎は、巨大地震に備え免震構造としたほか、家用給油取扱所、街区訓練施設及び雨水地下貯水槽などの最新の機能を備えており、市民の安全・安心を守る中核拠点として整備されました。



消防団女性団員は、火災予防の広報活動や防火啓発活動、住宅防火診断、応急手当普及啓発などを主体に活動しています。



熊野本宮大社で消防本部と自主防災組織が、合同訓練を実施しました。



毎年1月5日の出初式は、消防本部と消防団合同で行っています。

In an effort to protect its citizens' lives and assets, and reduce damage from disasters, Tanabe City is engaged in comprehensive and systematic disaster preventions, emergency responses, and restoration programs. Additionally, the city is taking steps to enhance cooperation between resident associations and volunteer disaster prevention organizations to create a city of individuals capable in handling disasters.

万が一に備えて

津波浸水ハザードマップ（津波浸水予測図）を基に、災害発生時にできるだけ高い場所へ避難するという意識の徹底を図るとともに、避難路の整備や津波避難ビルなど一時避難場所の選定、海抜表示板や夜間避難のための誘導灯の整備など、安全かつスムーズに避難するための取組を進めています。

また、自治会や自主防災組織をはじめ、学校や保育所・幼稚園も専門家の指導の下、積極的に避難訓練を重ねています。



保育園児、幼稚園児も災害時の避難訓練に取り組んでいます。

Schools, kindergartens and day care centers perform disaster drills under the direction of professionals.



津波避難施設イメージ図

南海トラフ巨大地震の津波浸水想定に基づく津波避難困難地域を解消するため、津波避難施設の整備などに取り組みます。



未来を見据え、 より良い市政を 進めるために



市議会議員選挙は、市民生活に直結した基礎自治体である田辺市の将来を託す最も身近な選挙の一つです。

人口減少・少子高齢化・災害に強いまちづくりなど地域における重要課題が山積する中、住民の直接投票により選出された議員で構成された市議会の果たす役割は、非常に大きいものがあります。

田辺市議会は、市長の提案する予算・条例などを審議、議決するとともに、市政に対する一般質問などで市が進むべき方向等を導き出す役割があります。一方、市長は市議会の決定に沿って実際のまちづくりを進めていきます。

市議会には、毎年3月・6月・9月・12月に定期的に招集される「定例会」と、必要に応じて招集

される「臨時会」があります。会期中は、全議員が出席する本会議と、市の仕事全体を大きく3つに分け、専門分野ごとに設置された常任委員会、また必要に応じて設置されている特別委員会などが開かれます。

また、議会広報機能の強化を図り、議会活動を広く市民の皆さんに情報発信するための広報委員会を設置しています。

議会に提案された議案は、本会議における質疑を経て、各常任委員会に付託され、慎重な審査が行われた後、本会議において採決されます。

市議会と市長は、お互いに独立した立場から協力し合って市民生活の向上に努めています。

Bills proposed in City Council first go through questioning in plenary session. After careful examination in standing committee, they return to plenary session for voting. The City Council and mayor cooperate in their independent positions to improve living conditions for Tanabe's citizens.



田辺市の市章 平成 17 年 10 月 1 日制定



この市章は、大正 10 年図案を懸賞募集し、田辺町章として選定したものを旧田辺市が引き継いできたもので、中央部は、田辺の「田」を表し、輝く星座のごとく田辺市の将来のますます発展することを象徴しています。

田辺市民憲章 平成 17 年 10 月 1 日制定

わたくしたち田辺市民は、美しい海・山・川の豊かなめぐみに感謝し、先人たちが築きあげた歴史と文化をうけつぎ、自治と福祉のこころにあふれたまちをつくるため、ここに市民憲章をさだめ、力を合わせてその実行につとめます。

1. 豊かな自然を大切にし、調和のとれた美しいまちをつくります。
2. 歴史と伝統に学び、教養を高め、文化のかおるまちをつくります。
3. スポーツに親しみ、心身ともに健康で、希望にみちた楽しいまちをつくります。
4. 人権を守り、たがいに助け合い、明るく平和なまちをつくります。
5. 時と資源を生かし、働くことを喜び、共に栄えるまちをつくります。

田辺市の木・花・鳥 平成 17 年 10 月 1 日指定



「うばめがし」

うばめがしは、海岸沿いから山間部までこの地に広く自生しており、荒地や傾斜地でも生育する力強さを持ち、名高い備長炭の原木として知られています。



「梅」

梅は、この地に多く栽培されており、その花は早春のころ元気よく咲き、香りは人々の心をあたたく包みます。



「めじろ」

めじろは、この地域に広く生息し、花を渡し、実を求める姿は美しく、その鳴き声はやさしさにあふれています。



田辺市が有する広大な市域には、世界文化遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』に登録されている「熊野本宮大社」・「熊野古道」や「闘雞神社」、日本三美人の湯として知られる「龍神温泉」、日本最古の湯といわれる「湯の峰温泉」などの温泉郷、そして梅やみかん、紀州備長炭、新鮮な魚介類等の温暖な気候や地勢に育まれた特産品など、人々の心と身体を癒やす魅力的で多種多様な地域資源が存在しています。

さらに、400 年以上にわたり高品質な梅を持続的に生産してきた伝統的な農業システム『みなべ・田辺の梅システム』が世界農業遺産に認定されたことから、2 つの世界遺産を保有する全国唯一のまちであります。

また、世界的博物学者である南方熊楠翁が、熊野の玄関口である城下町田辺に居を構えた理由を「至って人気よろしく、物価安く静かにあり、風景気候はよし」と日記に書き記したように、当地は、美しい海・山・川の豊かな大自然に恵まれ、さらには、古の熊野詣での時代から現在に至るまで、全ての人々をおおらかに受け入れてきた風土があります。

田辺市では、こうした多種多様な地域の特性を大切にし、それぞれの魅力を最大限に生かし、そして、その価値を高め、創造しながら、まちづくりの基本理念である「一人ひとりが大切にされ、幸せを実感できるまちづくり」を念頭に置き、未来へとつながる持続的なまちづくりを目指しています。

この市勢要覧では、田辺市の豊かな自然や魅力的な地域資源を数多く紹介しています。この要覧を通して、田辺市の魅力を発見され、そして、私たち市民が誇りと感じる豊かな郷土を実感していただければ幸いです。

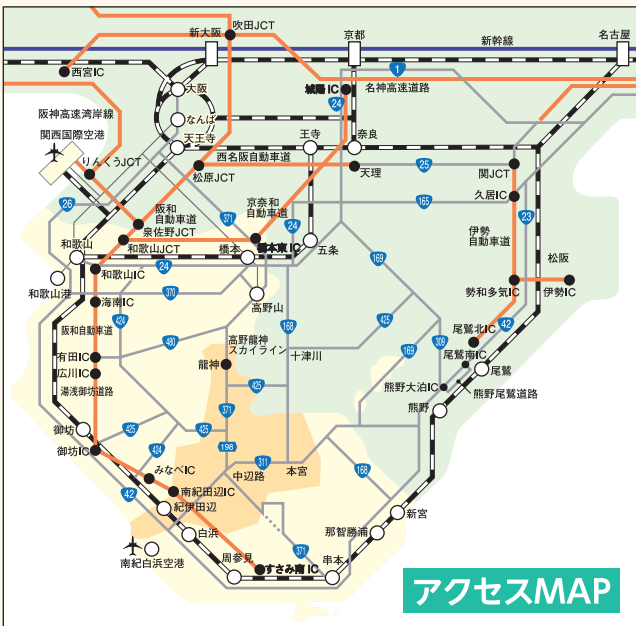
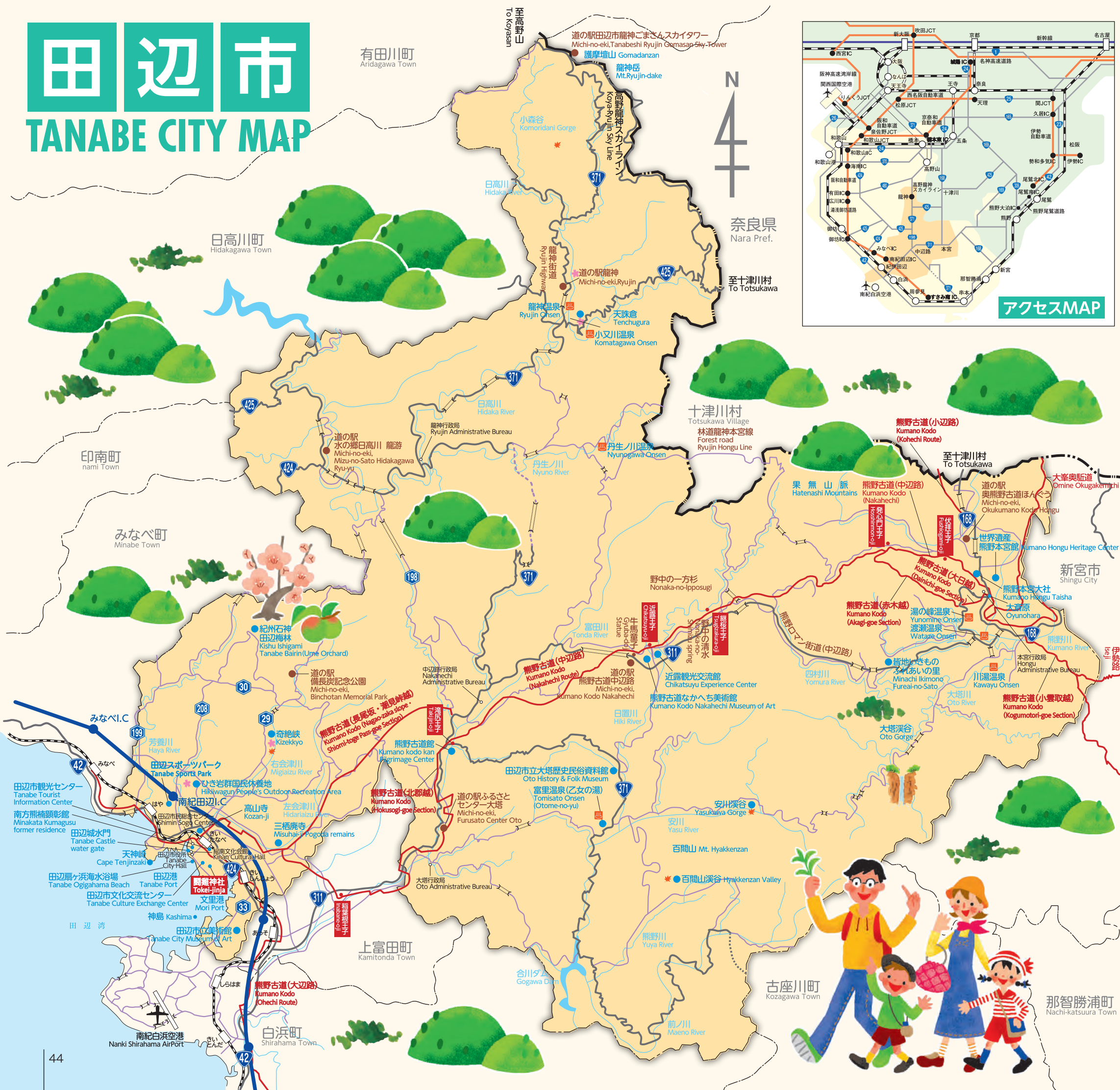
田辺市長 真砂 充敏

Tanabe's rich and expansive environment soothes the body and soul, and includes onsen (hot spring) such as Yunomine, Japan's oldest onsen, and Ryujin, one of Japan's three famous beautifying onsens. The city is well known for their production of ume (Japanese plums), mikan (Satsuma orange), Kishu Binchotan charcoal, fresh seafood, and other specialty products, due to its natural features and warm climate. Tanabe's World Heritage Sites, the Kumano Hongu Taisha Grand Shrine and Kumano Kodo Pilgrimage Routes, adds to the diversity and charm of the region. World-renowned naturalist, Kuamgusu Minakata, recorded in his diary the following reasons for choosing to live in Tanabe: friendly people, low costs of living in a quiet atmosphere, and nice climate and scenery. Indeed, our city is blessed with beautiful mountains, ocean, and rivers, and since the ancient days of the Kumano Kodo Pilgrimage, Tanabe's citizens have always been welcoming and generous to others. In Tanabe we cherish the diverse qualities that set our city apart. By utilizing these qualities extent, we seek to realize our vision of Tanabe as a "new major provincial city." We are working hard to establish a city of proud citizens free to lead rich, safe, peaceful lives together in kindness. This municipal guidebook introduces the many wonderful charms and rich environment of Tanabe. I hope that after reading it, you will be able to understand why we the citizens of Tanabe have such pride for our city.

Mitsutoshi Manago,
Mayor of Tanabe City

田辺市

TANABE CITY MAP



主な年間イベント



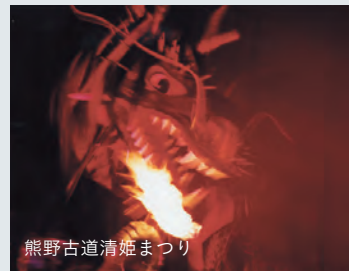
南国紀州の雪あそび



紀州石神田辺梅林



御田植祭



熊野古道清姫まつり



弁慶まつり



熊野古道絵巻行列



仙人風呂

- 1月**
 - 野中の獅子舞 (中辺路町)
 - 南国紀州の雪あそび (龍神村)
- 2月**
 - 粥古い神事 (稲成町)
 - 紀州石神田辺梅林開園 (上芳養)
- 3月**
 - 近野山間マラソン (中辺路町)
 - 観燈祭 (龍神村)
- 4月**
 - 熊野本宮大社例大祭 (本宮町)
- 5月**
 - 御田植祭 (稲成町)
- 5月下旬～6月上旬**
 - ホテル観賞会 (長野・伏菟野)
- 7月**
 - 大塔鮎釣り大会 (日置川上流)
 - 扇ヶ浜海開き (扇ヶ浜)
 - ぎおんさんの夜見世 (新庄町)
 - 田辺祭 (東陽)
 - 熊野古道清姫まつり (中辺路町)
- 8月**
 - ヤーヤーまつり (中心市街地の商店街)
 - 大塔地球元気村 (鮎川)
 - 下川上の流れ施餓鬼 (下川上)
 - 八咫の火祭り (本宮町)
- 10月**
 - 弁慶まつり (中心市街地 扇ヶ浜)
 - 田辺花火大会 (扇ヶ浜)
 - 杵荒神社奉納祭 (中辺路町)
- 11月**
 - 熊野古道絵巻行列 (中辺路町)
 - 芳養八幡神社秋祭 (中芳養)
 - 農林水産業まつり (上の山一丁目)
 - 住吉踊 (長野)
 - 上野の獅子舞 (下川下)
 - 野中の獅子舞 (中辺路町)
 - 小家神楽 (龍神村)
 - 田辺・弁慶映画祭 (新屋敷町)
 - 翔龍祭 (龍神村)
 - 万呂の獅子舞 (中万呂)
 - こだま祭り (本宮町)
- 12月**
 - 龍神温泉木の郷マラソン大会 (龍神村)
 - 仙人風呂オープン (本宮町)